

あかね文庫お話しの会 おひさまだより

えほんの紹介

『あめふり』



さとう わきこ さく・え 福音館書店
毎日毎日雨が続くので、怒ったばばあちゃんは雲の上のかみなりに向かって大声で叫びます。「こっちも考えがあるよ！」と。そこから始まるお話です。

ばばあちゃんはストーブに胡椒や唐辛子を入れ、からいからい煙をどンドン空に送ります。「ハクショーン！」「クショーン！」ちぎれた雲もろとも 地上の泥水に落ちた雷の子どもたち！ おかげで空はすっきり青空に。雷の子どもたちは雲の洗濯に大忙しです。

なんて楽しい場面でしょう！でも、雷の子どもたちは無事空に帰って行けたでしょうか？（裏表紙を見てください）ばばあちゃんシリーズは『すいかのたね』『いそがしいよる』など、どれも愉快なお話ばかりです。ぜひ手にとって見てください。

「かん太さまのいびき」

『くしゃみくしゃみ 天のめぐみ』より

松岡享子 作 寺島龍一 画 福音館書店

むかし、あるところに、かん太というどえらいいびきかきの男がいた。あまりにひどいいびきに、じいさまは夜よく眠れなくなり、顔色も悪くなってしまふ。力自慢の馬もすっかり力がぬけてしまひ、丸々太っていた豚もげっそりやせこけ、田んぼの蛙はみな伸びてしまふ。とうとうかん太は山へ行って寝ることに…。すると、天の年寄りの雷が降りてきて、そのいびきを雷の音と聞き違い、ぜひ天で代わりにいびきをかいてほしいとかん太を天へ連れて行く。——というわけで、どえらいいびきのおかげで天に昇って雷さまになったかん太のお話です。

この本の中には他に、はくしょんという名の若者がくしゃみのおかげで長者のむこになるという表題作のお話、風向きによって音の違うしゃっくりをする「とめ吉のとまらぬしゃっくり」のお話、ホーホケキョという音と梅の香りのおならをする「梅の木村のおならじいさん」のお話、大食らいで怠け者の男の腹の中に雀が住んでいる「あくびあや太郎」のお話が入っています。どのお話も底抜けにおおらかで明るく、ユーモアにあふれています。ぜひ子どもと一緒に楽しみください。



- ⑤ あひるのこ
④ くちばしとんがらがして
③ 豆かっつて
② 3円もらって
① にーちゃんが



絵かき歌



山の ふんかは
大地の おなら
すつこいぞ
すつこいぞ
人の おならなんか
カのおなら

『赤ちゃんとお母さん』

まど・みちお

童話屋



詩

かみなりさんは

まど・みちお

かみなりさんは
天のくしゃみ
でつかいぞ
でつかいぞ
人のくしゃみなんか
ノミのくしゃみ

『ものぐさトミー』

ペーン・デュボア 文・絵 松岡享子 訳 岩波書店

トミー・ナマケンボは電気仕掛けの家に住んでいます。朝お日さまが昇ると、ベッドが自動的に動いて、トミーはお風呂の中に滑り落ち、体を洗われます。服を着替えるのも、歯をみがくのも、食べるのも、何もかも機械がしてくれます。トミーが自分するのは、ベッドまでの長い階段をのぼることだけ。こんな機械があると便利です。

ところがある夜、大嵐になり“かみなりがなり、いなずまがひかり”、電柱が倒れ電線が切れて停電し、機会がすべて止まってしまいます。七日後にやっと復旧すると、冷たいお風呂に落とされてあわてたトミーは、逆さまになったまま足を電気歯ブラシでみがかれ、逆さまに服を着せられ、食堂のテーブルに逆さまに座りました。するとトミーの足の上に七日分の食事がつぎつぎに降ってきて……。このあとトミーはどうなったでしょう？

トミーをお世話する？ 奇想天外な装置の絵が楽しく見入ってしまひ、大笑い間違いなしです。

